

令和8年9月25日

山元町議会議長 伊 藤 貞 悦 殿

派遣議員 岩佐 秀一 渡邊千恵美 竹内 和彦
村野 里砂 大和 晴美 (齋藤俊夫欠席)
遠藤 龍之 丸子 直樹 日下 重紀
菊地 孝式 品堀 栄洋 岩佐 孝子

議員派遣結果報告書

宮城県町村議会議長会主催の「令和8年度町村議会議員講座」に出席しましたので、その結果を下記のとおり報告します。

記

- 1 研修目的 研修を通して議員の資質向上を図る。
- 2 研修月日 令和8年7月2日・3日
- 3 研修場所 宮城県自治会館
- 4 研修内容
 - (1) 7月2日
講演「人口減少時代の地方議会のあり方」
講師 東京都立大学人文社会学部教授 山下 祐介 氏
 - (2) 7月3日
講演「これからの地方議会と地方議員」
講師 東京都立大学法学部教授 大杉 寛 氏

5 研修概要

- (1) 7月2日
人口減少の本質は単なる過疎化ではなく、低出生率の東京圏への若年層流入に伴う全国的な少子化にある。この課題に対し、地方議会は単なる多数決の場にとどまらず、子どもや将来世代を含む声なき少数派の意見を政策に反映し、首長とは異なる多角的な視点で地域全体のバランスを調停することが求められる。過度な悲観は不要だが、少子化対応は急務である。地方が誇る農地や自然資源、コミュニティという固有の強みを再認識し、子育て支援や女性の活躍推進、若者の定着を図ることで地方の価値を高める視点

が重要となること等について講演があった。

(2) 7月3日

人口減少や少子高齢化、人材不足、DX・AIの進展、災害の頻発など、地方自治体を取り巻く課題が複合化する中で、これからの地方議会と地方議員の役割について学んだ。

特に、小規模自治体は住民との距離が近く、地域課題を把握しやすい「スモールメリット」を持つことから、小さいことを強みとして生かした地域づくりが重要であるとの説明が印象に残った。

また、行政の広域連携や効率化が進む中でも、住民の声を集約し政策提言につなげる「アドボカシー」は議会の重要な役割であり、議員には要望の取次役ではなく、住民・行政・地域をつなぐコミュニティリーダーとしての役割が求められる等について講演があった。

6 まとめ

(1) 7月2日

本講演では、人口減少問題を単なる数値の増減ではなく、社会構造全体の偏りと捉える重要性が示された。特に地方議会には、多数派の決定に終始するのではなく、子どもや将来世代を含む「声なき少数派」の意向を汲み取り、地域全体の課題解決へ向けた羅針盤となる役割が求められている。

今後は人口減少を前提とした持続可能な地域づくりに向け、多様な住民の声を拾い上げる広聴体制の強化や、女性・若者の政治参加の促進、さらには地域コミュニティの維持・活性化に向けた具現策の検討を一層加速させる必要があると感じた。

(2) 7月3日

本町における今後の議会運営では、まず議員活動の「見える化」の徹底が不可欠と感じた。住民に認識されている活動は氷山の一角に過ぎず、広報紙やSNS、報告会を活用して本会議以外の活動や地域課題解決への貢献を可視化し、信頼基盤を再構築する必要がある。

次に、多世代が参画できる「対話の場」のプラットフォーム化を進めるべきと考える。若者や女性など多様な層を巻き込むため、議会主導やコミュニティ連携による柔軟な共創の場を創出が必要だと感じた。